

俳人協会創立65周年記念

2026年秋季俳句講座

「日本文学にみられる季節観」

期 日 10月20日、27日、11月10日、17日 全4回
午後1時半～3時

会 場 俳句文学館 地下ホール

受講料（各回） 協会員＝1000円
非協会員＝1500円

申込方法 メールか往復はがきにてお申込みください。

- ①受講希望日（複数応募可）
- ②氏名
- ③協会員／非協会員
- ④電話番号
- ⑤（非協会員は）郵便番号・住所
- ⑥はがきの方は返信欄に宛名（ご自身の住所・氏名）送り先

メールは↓こちらからどうぞ



hajinkyokai_koza@neo-familie.ne.jp

はがきは↓〒169-8521 東京都新宿区百人町3-28-10
公益社団法人 俳人協会俳句講座

申込締切 8月末日（当日消印有効）

8月1日（土）申込受付開始、定員は65名です
（先着順）。

受講料は当日受付にてお支払いください。

講師紹介

- ◆ 10月20日 鉄野昌弘 東京大学名誉教授
- ◆ 10月27日 高田祐彦 青山学院大学教授
- ◆ 11月10日 伊東玉美 白百合女子大学教授
- ◆ 11月17日 鈴木健一 学習院大学教授

俳人協会創立65周年記念 秋季俳句講座

テーマ「日本文学にみられる季節観」

◆ 第1回 上代 鉄野昌弘

『万葉集』における「季節」

『万葉集』の時代、7～8世紀は、「日本」という国とともに、暦法や季節感の定まった時代です。『万葉集』の和歌から、「季節」の成立と展開を読み取ります。

◆ 第2回 中古 高田祐彦

『古今和歌集』と『源氏物語』

平安時代の季節観は、基本的には「古今和歌集」によって確立されたが、その基盤の上に、『源氏物語』がいかなる虚構の四季、自然の世界を構築したか、考えたい。

◆ 第3回 中世 伊東玉美

『徒然草』の季節観

『徒然草』には季節に関する様々な記述が織り込まれていますが、それらはどのように表現され、兼好の美意識と関係するのか、考えてみます。

◆ 第4回 近世 鈴木健一

芭蕉・蕪村・茶の詠んだ動物たち

芭蕉・蕪村・茶が詠んだ動物をめぐると、句を取り上げながら、それぞれの句の味わい、季語の機能、動物の特質などをお話しします。